

文芸

Japanese Poem of 31 syllables
Haiku Poem Comic Haiku*

短歌 (南船志布志短歌会)

才女ふえ男は正月の厨房でぼつりぼつりと餅きる音す
なにげなく川面に石を投げてみた昔むかしのふしぎな感覚
いち早く顔に差しくる初の日を親音様と並び拝みむ
親の無き三人の姪は子等の親その子も居りて命をつなぐ
遠き日を夢の如くに思ひをり鳥が三羽空過りゆゆく
あらたまの年の始めの厨にて水に触れば時動きだす
雨あとの樹々冴えわたる築山の梅の小枝の赤きふくらみ
我が命引き継がるも自然なりただ今に生かされている
ただの紙君は言ふけど人それぞれ夢を託しめ籤の大吉に
恙なく迎ふる我が家に幸あれと願ふが如きおだやかな元旦
年末に鮭銜えし熊洗う亡き夫と巡りし蝦夷地を思ふ

暉峻 康瑞
池ノ上一枝
川井田登志子
林 静子
平川 澄子
益倉 睦美
松下 芙美
松元 文子
宮原 順子
山田 和子
山元ハツミ

短歌 (はなさい短歌会)

麗しき三人官女息こらし舞の合図を待つ宵の刻
過疎の田に地区民集い鬼火焚き甘酒しる粉 振る舞い酒も
森昌子の唄う「先生」聞く度に次々浮かぶ教え子の顔
樹の枝は花のうごめく様見せて群れる雀の声のにぎやか
鈍色の錦江湾に大寒の陰しさ迫る白波が立つ
立春をさえぎるように寒もどりため息交じりの銀のマニキュア
厨辺に小豆の煮えるふつふつと幼は跳ねる霜柱の庭
立春を迎えて暦は春なのに花散るように雪が舞いくる
梅の花日ごと咲きゆく庭に居て鶯の声聞かぬは淋し
白梅はほころぶ沿道旗の波県下駅伝薩摩路駆けける
華やぎを仄か残して八十年雛の紅吾が裡におく

南 史郎
篠原 順子
東郷ミイ子
渡辺クミ子
満園 正夫
篠田 紀子
松原ひろえ
下戸富美子
江蔵 成子
内山 幸夫
西 恭子

川柳 (志布志川柳会)

稀少価値 肩で風切る新成人
うっかりが人事でない 大火災
腕相撲 親父に花を持たせ負け
おめでとう 生「ミ」持って ご挨拶
ありがとう その一言で 座が和む
国産の 綱に面子が 立つ国技
共白髪 今年も達者 花散歩

末永 一雄
上東マキエ
高田 秀雄
赤池 忠重
江藤 房子
高田 昭秋
内山 幸夫

『志』・季・折・々

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真で紹介いたします。
読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：土筆（つくし）】